

平成28年

第3・4回 定例会報告

品川区議会公明党は、平成28年の第3回定例会、第4回定例会、決算特別委員会において、以下の質問を行いました。「輝く笑顔 住み続けたいまち しながわ」であり続けるために、子どもたちが、そしてひとり一人が明るくいきいきと暮らせる街づくりを進めます。



健康・福祉



新生児聴覚検査費用の公費助成

難聴児の早期発見、早期療育のために、全新生児が聴覚検査を受けることが重要であることから、区単独もしくは東京都全体として公費負担する仕組みづくりを求めました。

育児と介護のダブルケアの周知啓発と相談体制の整備

当事者の困っていることに対して相談に乗り、必要な情報やサービスに繋げるダブルケア視点を持った人材の育成や窓口の設置を求めました。

空き家と空き室を活用した住宅困窮者への居住支援

住まいに困っている方たちへの空き家・空き室を活用した居住支援協議会の設置に当たり、どのような仕組みとなるのか区の考えを明らかにするよう求めました。

待機児童対策

育休明けに確実に入所できるよう1歳児の入園枠を拡充すること、また、育休取得が困難で出産を機に退職せざるを得ない保護者の子どもは、保護者の再就職活動ができる仕組みとして、利用調整の加点など、それぞれニーズに対応した対策を提案しました。

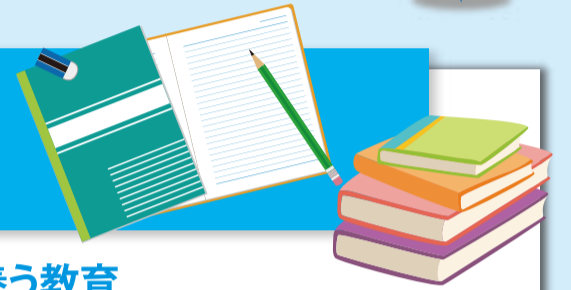
子どものキャリアデザイン

経済的に支援が必要な子どもに対し、学習支援や食事の提供などとセットで就労体験や進路選択など、高等教育、そして就労につながるキャリアデザインの取り組みを求めました。

高校入学準備金の負担軽減

国や東京都によって高校、大学の教育費の負担軽減が検討されている中、高校などの進学を控えた子どもがいる家庭の入学準備の負担を軽減する施策を区に求めました。

教育



創造性を養う教育

子どもが、将来、ロボットやコンピュータと共生していく力を育むために、さらに創造性やコミュニケーション能力を養う教育の推進を求めました。

品川区の教育の見通し

学校選択制について再評価し、地域コミュニティにとってのマイナス面を含めて、改めて理解と共感、そして納得を求めることが大切であると指摘し、区の見解を求めました。

障がい児・者支援



地域に隔たりなく障がい者就労施設を整備

就労継続支援B型の施設は、利用者がより近いところで通えることが理想的なので荏原地域も含めた区内全域に整備することを求めました。

障がい者の芸術活動を応援

障がい者への理解促進のために、「障害者週間・記念のつどい」においても東京2020オリンピック・パラリンピックを視野に入れた障がい者ダンスなどを取り入れるよう提案しました。

防災



「街かど消火栓」の配備

初期消火体制の強化のためにも、簡単に一人でも扱える簡易水道消火装置「街かど消火栓」の配備を提案しました。

生活道路の無電柱化整備計画

都による区道の無電柱化への支援拡充が期待されるなか、区として生活道路を含めた無電柱化を推進するための総合的な計画の策定を提案しました。

にぎわい・活性化



補助26号線へのバス路線導入

26号線の開通を契機にオリンピックのホッケー会場となる大井ふ頭中央海浜公園や臨海斎場への路線バス拡充を求めました。

勝島運河に人道橋設置

勝島地区から八潮学園や浜川中学、浜川鮫浜小学校へと通学する小学生・中学生の通学路、また、しながわ花街道の回遊性向上のため勝島運河への人道橋設置を提案しました。



品川の未来をつくる施策を要望!!

平成29年度に向けて208項目にわたる予算要望を行いました



平成28年9月8日、濱野健区長に申し入れ

オアシスルームを増設し、空き状況などを確認できる管理システムを構築してください

「認知症カフェ」の設置及び運営支援を実施し、カフェ同士のネットワークを構築してください

認可・認証保育園入所待ちの認可外保育所利用者への保育料の助成を実施してください

区内の全鉄道駅に可動式ホームドアを整備するよう推進してください

児童虐待防止ネットワークを強化するため、品川児童相談所の区への移管を早急に図ってください

急傾斜地の土砂災害対策を強化してください

区内2カ所の「にじのひろば」で一時預かりの利用者が増加しているため、拡充してください

装飾灯LED化助成で、電球のみの取換え助成利用時、支柱の取換え助成が10年間利用できない条件を緩和してください

成人歯科健康診査について、若年期からの予防や意識啓発も含め、対象年齢を20歳～80歳としてください

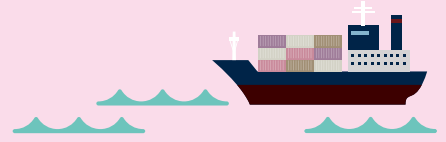
特別養護老人ホーム、老人保健施設、グループホーム、小規模多機能居宅介護施設などを増設してください

インフルエンザ流行期にともなう繁忙期の休日診療体制強化事業については、期間、回数とも状況に応じて柔軟に対応してください

機能強化型訪問看護ステーションを増設してください

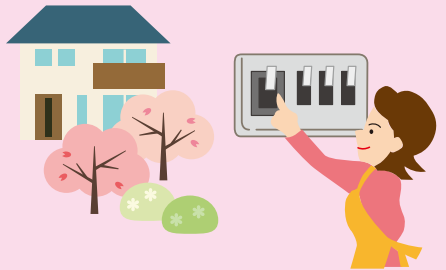
複式簿記・発生主義会計の実務研修会開催等で、全職員の理解・共通認識を深化してください

水辺を活用した観光の推進のため、親水護岸の整備・ボードウォークの設置や、イベント開催の支援を行ってください



助産師等が24時間対応できる産後ケア事業を実施してください

(仮称)品川区立障害者総合支援施設の開設で、医療的ケアが必要な重複障がい児・者が利用できるショートステイを複数床整備してください



感震ブレーカー設置経費補助の対象地域を拡大してください

都市問題会議 視察報告

全国の地方自治体の首長・地方議員などが参加する全国都市問題会議に会派4名で出席しました。昨年10月6日・7日の2日間にわたり、「人が集いめぐるまちづくり～国内外にひらかれた都市の活力創出戦略～」をテーマに岡山市で開催されました。

ドイツ文学者、池内紀氏の基調講演や大森雅夫岡山市長の主報告のあとテーマに沿った報告、パネルディスカッションが行われ、それぞれの分野で“まちづくり”に活躍される個性豊かな人物の話を知ることができました。会議のなかで品川区の水辺活性化の取り組みが紹介されました。品川区は他の地方自治体に先んじて“活力創出のまちづくり”が進んでいる印象を受けましたが、更なる発展のためには、大田区や港区といった近隣区と連携した事業も検討すべきです。また、個性と活力に溢れる民間の力を公共の舞台で存分に発揮できる施策が打ち出せるか要検討です。



シティプロモーション(坂井市)視察

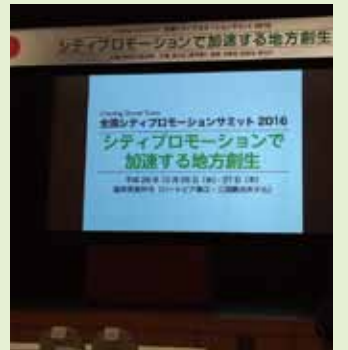
福井県坂井市で「第4回全国シティプロモーションサミット」が昨年10月26日・27日に開催され、品川区も共催しているため会派として視察しました。

全国シティプロモーションサミットは、平成25年に尼崎市の呼びかけで第1回が開催され、今回は、105自治体、約500名の参加がありました。

将来、日本が人口減少になっていく中で、自治体の定住人口増加への取り組みとして、それぞれの良さは何か、また、それをどうアピールしていくのか、自治体のシティプロモーション活動の必要性が高まっています。

基調講演は、PRプロデューサーである株式会社TMオフィス代表取締役殿村美樹氏が、～人がみずから動く仕組みブームをつくる～のテーマで行い、人間の精神活動の3要素である「情」に訴える情報発信こそ効果的であるとの内容でした。

次回は、主催者・品川区と決定し、区内での開催となります。品川区議会公明党は、品川区のシティプロモーションが、全国の模範となるような取り組みを進めて参ります。



公明党の区議会議員



若林 ひろき



たけうち 忍



浅野 ひろゆき



このの 孝子



塚本 よしひろ



あくつ 広王



つる 伸一郎



新妻 さえ子

皆さまの声をお聞かせください。お気軽に、ご意見・ご要望をお寄せください。

電話 03(5742)6817

FAX 03(3774)3366

Eメール info@shinagawa-komei.org